**令和４年度　第１回北海道Society5.0推進会議**

**「データ利活用ワーキンググループ」　開催概要**

１　日　　時

　　令和４年８月２日（火）10:00 ～ 12:00

２　実施場所

　　かでる２．７　６１０会議室

３　出 席 者

　　別添「出席者名簿」のとおり

４　議　　題

　　別添「次第」のとおり

５　議　　事

　(1) 議事１　本日の会議について

|  |
| --- |
| ・事務局（北海道）から説明（資料２） |

　(2) 議事２　令和3年度ＷＧの取りまとめ事項

|  |
| --- |
| ・事務局（北海道）から説明（資料３） |

　(3) 議事３　令和4年度ＷＧでの検討事項

|  |
| --- |
| ・事務局（北海道）から説明（資料４）・事務局（北海道）から説明（資料５）・事務局（北海道）から説明（資料６） |

(2) 議事４　意見交換

|  |
| --- |
| （道庁のデータ棚卸しについて）* 本来は、データベース基盤が整備され、データの一時ソースは基盤に必ず入力し、自分たちが使うときも基盤のデータを一時ソースとして使う。入れるところが一つになっていてデジタル化されていれば、（オープンデータとして）公開するのは仕組みの話だけなので、あまり大きな議論にはならないはず。しかし、今はそうなっていないので、オープンにするためにデータを作る手間が必要になり、なかなか進まない。
* 仕組みは将来を見ながら移していくと言うことに異論は無いとして、今できることで何をするかの最初の一歩としてデータ棚卸しを行う。
* 昨年ハッカソンに参加して見て、（オープンデータについて）本当はもっとデータがあるはずなのに無かったり、公開されているがPDFで機械判読しにくい形だったりして、まだまだ課題があるなと感じた。
* 少しづつデータを公開して、公開したことで何か成功事例が生まれて、それで他の所も公開しようというポジティブなフィードバックが生まれないとなかなか難しいのかなというのが実感。
* データを可視化して、誰でもわかるようにすることに力を入れていかないと、ここにデータがあるから活用してねと言ってもなかなかわかってくれないと思う。
* データをどう見せるか、市民、生活者、企業も知るべき。そこに工夫があると、興味持ってもらえる。
* どれだけ具体をたくさん集めて、そこからこれとこれが紐付くテーマという課題感をサービスに落とし込めると素晴らしい。
* データを作って格納していく所のアプローチと、データがほしいと思った所にアクセスするというところがかみ合っていない（のでデータを探しづらい）。そもそもあるかどうかわからないデータになってしまうと難易度が増してしまうので、データ棚卸しが、データを探しやすくなる取組となる。
* 課題を聞くときには一社一社聞いている。すごく骨の折れる作業ではある。今までデータ利活用というのはあまりイメージ持ちにくかったが、（一つ一つ課題を聞いて）そういう人たちにまで波及していかないと、世の中を変えていくということにならない。
* 棚卸しの項目で、（きちんと説明しないと）各課が何を出せばわからないと思う。どういったデータを出せばいいかわかりやすく、かなりターゲットを絞ってやらないと、全庁で調査すると粒度がバラバラになり取りまとめが大変。
* （室蘭市で）おそらくこの調査をしたときに、ほぼデータが上がってこない。
* 全市町村から道庁にデータが集まっているので、その集まったデータを道庁がまとめて出す方が利用者としては使いやすい。同じようなデータが各町からバラバラ出ているよりその方が良い。
* 市町村も含めた全道的な形でのデータ棚卸しでも、利用促進というところでは基盤整備が必要。
* オープンデータの公開基準は情報公開請求で請求されたときに出せるかの1点だけ。
* データを公開するときにどれくらいの達成度なのかを可視化し、隣の部署と比べてどうなのか、評価されるような仕組みがあり、それ自体もオープンにされて市民からも見れる化されるような仕組みを入れないとなかなか進まない。
* データを入れる箱も重要。それぞれの目的に対して、課題を解決していくためにデータを公開していくというような型がないとなかなか難しい。
* データを何に使うか目的はどうするのか。何も無い中でオープンにしてさあ使えと言っても難しい。
* コロナのサイトのように民間有志でアプリを作ろうという動きも起こる。データをオープンにしてというところだけで無く、どのようなことに困っているのか、手が回らない、予算が無いなどそういうところも含めて、正直になっていくことも大事。
* オープンデータを公開するという話になったときに、どうやって何に使われるのかと聞かれてしまうことがあり、そこを打ち出しすぎると次のデータを公開しようと思ったときに、同じよう聞かれてしまうので、対外的な説明としては、オープンデータなのでどう使われるかわからない、使われる結果についても、こちらの方では把握していないと説明をしている。
* ニーズや困りごと、そういう付随することもオープンにしていくと、その中でデータをどう位置付けるのかということを議論していかないと進まないのではないか。

（民間のデータ利活用について）* 公開したデータを誰が使っているかわからないのは、民間で一番危惧するところ。誰に対して提供されて、目的を含めてどう利用されるか、信用できるかということは、民間の出すデータでとても重要な要素。
* （民間は）お金にしたいものもあれば、お金にならなくても公開しても良いなと思うデータはある。交通整備とルール作りみたいなものが非常に重要な点。
* どういうふうに利用すべきか、注意事項があればどういう形なのかというのを整理しなくては、民間としてデータは出しにくいという問題意識は理解できる。
* そのような使われ方をするとは昔は思わなかったが、ディープラーニングなどの活用によってそのような使われ方をする、そういったアイデアやディスカッションも見える化されれば、民間の方々もデータを出してみるかなという話になるかも。
* 産業分類みたいなものを決めて、分科会のように必要なデータは何なのかというのを意識して、課題解決のためのデータをその業界ごとに考えていくということも一つのアプローチ。
* 必要なデータを分類してうまく見せると、民間の人も使い勝手がいいかなと思えるのではないかと感じた。
* 一個一個のデータも大事だけれども、俯瞰した全体像をどう考えていくのかということも大事。業界別だったり、業種別だったり、あと階層構造がしっかりしていると、市町村でいくと、最後全部まとめると最後は道全体のデータになると。そういった階層構造もある。
* 大学でデータ公開できるか考えると、リソース的に事務職員もなかなか皆さん忙しいので、実際問題難しいなというのがあって、同じように企業側の立場からしても難しい。
* 今だと多くの企業が、割とＣＳＲ的、企業責任的な立場で公開しているところも多いと思っている。それはもちろんありがたいが、やはりそれだけだと限られる。データを公開して、こんなことがあります、こんなことが嬉しいですよという事例を増やすことがとても大事。
* Kaggleだとか、日本だとSIGNATEいう、データ分析コンペティションが開催されている。データを公開してコンペにする形で、コスト的にも安くできるので、そうしたことを事例としてもっと知られても良いのでは。
* データを公開して、自由に使ってもらって、ハッカソンやコンテストで、日本だとヒーローズ・リーグというコンテスト。データを公開して、それで想定外の人たちにも使ってもらうことで、新しいものが生まれますという事例が増えて、それがどんどん広がっていくと良い。
* NIIのリポジトリに登録して、申請した人だけが使えるような、研究目的に限るデータ公開をしたいときには、完全にオープンにする以外にもいくつかの選択肢がある。そういうところも活用していただけると研究としてデータを利用する側としてはありがたい。
* ＡＩやＤＸを含めて、世の中がそういう人材が重要だとなってきたときに、しっかり整備された形でコンテスト形式になっているから参加しようとか、整備されているからやろうというところも出てくる。
* プログラミングをしないけどＡＩを使いたいようなレイヤーの人たちは、そういうツールがあって、オープンデータになっていて、過去の売上データとか、先ほど言った天気のデータと観光客のデータをクロスしてみて、予想できるかをやろうみたいなことを考える。それを人材育成に持っていくということはある。
* 札幌市とＡＩ道場というのをやろうとしている。キックオフイベントがあるが、それは、データとともに、企業から一緒に課題を出してもらう。それを人材育成の教材として使って、それは札幌市の方でお金を出して、勉強するエンジニアに給料が出るという仕組みになっているが、発想としてはそれに近い。うまくオープンデータと絡まって、人材育成というところもうまく回ってくると、北海道にとっても良いこと。
* （札幌市のデータ連携基盤について）相手先の信用とか、二次利用や三次利用の整理をしたりとか、そういった機能の要望があるので、どのように実装して、どう規約を作っていくか、使いやすさとのバランスをとってということに日々頭を悩ませているところ。
* 交通事業者のデータとかを、ずっとやっているが、やはり出して何の意味があるのかということも結構強く言われるので、少なくとも少し売れますというお話をする。
* ５年ほど前の東京では、SIGNATEやKaggleを人材の評価の指標に使っていたという企業や、データを使うということが身についている企業も多かった。北海道、札幌もまだまだ少ないと思うので、そういうことにも掘り起こしていかなければいけない。
* 民間企業などから、こういうことやりたいということの具体例を見せられると、やりやすく進めやすかったというところがある。
* 商品データだったり、二次創作のライセンスのデータであったり、企業活動であったり、採用活動の情報だったりというのはむしろ、一人歩きしていても出ていってもらいたいみたい。民間企業から求められているデータは、よく使う立場で考えると、実は価値のあるデータがほしかったりする。
* 結構まとめが難しい。色々な立場もあるし、手間もかかることだし、解決策はこうということはなかなか難しい。
 |

　(4) 議事４　今後の進め方について

|  |
| --- |
| ・事務局（北海道）から説明（資料６） |